

花高同窓会会報



第103号

発行 平成24年2月27日

秋 田 県 立 花 輪 高 等 学 校
同 窓 会 事 務 局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12

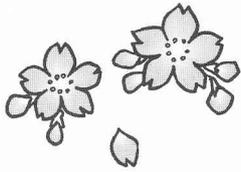
TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137

URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudousou/>

印刷 (有)大館孔版社



(旧新田町校舎の校門)



課題調査

『花高祭の仮装行列の変遷について』



同窓会事務局
大 澤 太 教諭

卒業されても花輪高校の卒業生として絆を大切に、部活動やクラスの仲間、さらには同窓会活動に参加し、互いに連絡を取り末永く交流を深めていってほしいものです。同窓会のホームページで母校の活躍を楽しみに見て下さい。

本校の仮装行列について、本校の教育相談室に收藏されている様々な資料にあたってみた。二度の引越を経て現在に至っているだけに、その都度失われたものも多く、卒業アルバムや生徒会誌「青垣」も全部そろっていないのが現状である。残っているアルバムを見ると、一九六六年卒業者のアルバムには仮装行列の写真が掲載されている。(下図を参照) 小さくて見

皆さんが卒業し進んでいく今の社会は、決して明るい未来を想像できる状況にはありません。ユーロ圏で景気後退の可能性が高まり世界的な経済的不安があります。日本の政治が混乱している中で、追い打ちをかけるように東日本大震災、そして原発事故、足元を見ると秋田県や鹿角市の過疎化等々解決しなければならぬ問題が山積しています。しかし、これは逆にこれから何をしなければいけないかの課題をはっきり教えてくれます。

にくい、「カーニバル」や「大名行列」といった看板が見える。ではいつから仮装行列が始まったのか。卒業生に電話をして聞き取り調査を行った。一九六一(昭和36)年に卒業された学年は、学校祭はあったが、仮装行列はなかったと思いついていただいた。学校に残されている卒業アルバムも61年、62年のアルバムには仮装行列の記録はない。一九六四(昭和39)

皆さんにはこの混沌とした時代ゆえに「大きな夢」と「高い志」を持たなければいけません。人は夢・目標や志があれば生き甲斐を持つて強く生きて行くことができます。



『大きな夢と高い志』

同窓会長 井 上 高 廣 (高18期)

卒業された皆さんは、自然豊かで教育環境に恵まれた花輪高校で、三年間保護者と先生方に暖かく包まれ、勉強や部活動に励まれて来たことと思います。この思い出深い時を過ごし、新たな進路へ旅立たれる皆さん、ご卒業おめでとうござい

皆さんが卒業し進んでいく今の社会は、決して明るい未来を想像できる状況にはありません。ユーロ圏で景気後退の可能性が高まり世界的な経済的不安があります。日本の政治が混乱している中で、追い打ちをかけるように東日本大震災、そして原発事故、足元を見ると秋田県や鹿角市の過疎化等々解決しなければならぬ問題が山積しています。しかし、これは逆にこれから何をしなければいけないかの課題をはっきり教えてくれます。



花高・山岳部
(井上会長：後列中央)

ます。皆さんが二十年後三十年後それぞれの分野で、大きな活躍をして社会に貢献する人間になっていることを期待しています。

年の卒業者からは、自分たちの三年生の時に仮装行列が始まったと伺った。どうやら、一九六三年度に仮装行列は始まったのではないかと考えることができる。

また、学校に残された資料の中に、第四回花高祭のパンフレットがあり、当時の生徒会長の名前から一九六七(昭和42)年に実施されたと考えられる。この年が第四回だとしたら、花高祭の開催は一九六四(昭和39)年からと考えられる。

以上の点から、仮装行列は、学校祭が花高祭という名称になった時期と、ほぼ同時に始まったと考えて良いようである。この時代の花高祭は、金曜日の午後以前夜祭としての仮装行列・キャンパス・ファイヤー、土曜日に校内公開、日曜日に一般公開というスケジュールで実施している。現在に比べて余裕のある展開である。何よりも参加している文化部が14以上あったことに時代を感じさせる。そうした多彩な学校祭の中では仮装行列もその一つの催しに過ぎなかったことが、現在と大きく違う点である。

叙勲記念寄稿

「培われた絆」を大切に



東日本大震災があり、

本列島はその衝撃で揺れ続けた。今、その復興に官民あけて取り組んでおりますが、対応のまずさもありません。

更に、震災の影響もありますが、日本経済は依然として混乱しており、中でも東北地方はより厳しい状況下にあります。その改善は難しく、疲弊している社会構造の見直しを図らなければ隘路から抜け出せないと思います。戦後六十有余年を経て、日本社会の多くのシステムが少子高齢化やグローバルな時代にそぐわなくなつて来たからであり、ここ数年の中に間違いなく大きな変革の波が来そうであり、その厳しくも新しい時代の主役を担うのは青年諸君であります。花高の卒業生は派手ではありませんが、勤勉

花高部活動後援会長 杉江宗祐 (高10期)



かつ忍耐強さでは定評があり、一人ひとりが、それぞれの能力や個性を発揮するならば、社会の一隅を照らす人材となりましょう。東日本大震災以降、人と人との「絆」の大切さが再認識されておりますが、

花高生はクラブ活動を通じて生徒間の絆をずっと大切にしています。その成果がスキー部や陸上競技部の華々しい活躍に結びついており、すし、他の部活においても然りです。

その絆、或いは連携の在り様は、社会人になつてからもいろんな場面で大きくプラスに作用しますし、同窓会はその輪を更に広げてくれます。会の催しに積極的に参加され、大いに存在をアピールすると同時に同窓会の活性化にも寄与してほしいものです。

旭日小経章 地方自治功勞

昭和14年10月28日生まれ。花輪高卒。昭和35年に花輪町役場入り。47年の町村合併の際には事務方として町の財政再建に奔走した。63年の鹿角市長選で初当選、連続3期。平成15年から県議を1期務めた。全国国土調査協会副会長、県スキー連盟副会長、本校同窓会長など歴任。



伝達式で謝辞を述べる杉江氏 (県正庁にて) (H23. 11. 5付 さきがけ新聞より)

会員寄稿

『花高健児、都大路を疾走』

八幡平 阿部一弘 (高24期)

十四年ぶりの都大路、第六十二回全国高校駅伝競走大会に出場した花高男子駅伝チームを応援すべく、保護者の一員として、京都に駆けつけました。大会当日の京都は、寒波で底冷えしておりましたが、選手達は堂々と全国の強豪と互角にわたり合い、結果は三十一位でしたが、今持てる力は十二分に発揮してくれたものと思います。

少しの流れで順位が大きく変動するのが駅伝、それほど大きな差はなく、次に期待できる内容であったと思います。

特に、我が校チームは全員、地元「鹿角」を象徴するものであり、地元市民、同窓会の皆様の物心両面にわたるご支援と部員全員の総合力で勝ち得た結果だと思えます。

白地に紫のユニフォームが都大路を疾走し、「花高健児意気や高し」を体現してくれた選手諸君に感謝、感激であります。

今年、都大路に出場するのが目標ではなく、都大路で入賞するのが目標です。そして、今年こそ女子チームとアベック出場です。その時は、大応援団を組織していきたいと、今から楽しみにしております。

佐藤監督をはじめ、ここまで導いてくれた諸先生に感謝申し上げますとともに、選手諸君の益々の精進を期待します。

「人間力で強くなれ」 (鹿角副市長)



全国駅伝大会 (京都)

平成24年度総会のお知らせ

日時：平成24年5月12日(出)PM5:30
場所：芳茹荘 会費：3,000円

人・集まる・同窓会を目指し、当番幹事を決め、総会の受付・司会など企画・運営に参加してもらつての初めての総会です。どんな総会になるのかは、参加者のみぞ知ることなのですが、一人でも多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。また、学年幹事の皆様にはご難儀をおかけしますが、思い出に残る楽しい総会にして頂ければと願います。花高同窓会の新たな一歩を皆様と共に！

【連絡先】 ☎0186・23・2126 担当：大澤まで

『大志を抱いて前進』

尾去沢 高杉 正美 (高11期)

光り輝く卒業をまじかに控えている花高生の諸君。

夢と希望とそして、少しだけ不安もあると思いますが、高校で学んだあらゆることを自信と誇りにし、更には、何事も積極的にそして前向きに前進してほしい。

私は、昭和三十四年卒業後十八才一人で日立市へ行き日立製作所の門をたたき入社した。

その後あこがれの六大学明治大学へ入学した。あきらめることなく向上心を持ち目的を達成するまで頑張ることです。花高生は、八幡降しに鍛えた精神力と創造力にたけた心豊かな生徒ばかりである。志を大きく持ちつづけ社会のため羽撃いてほしい。

君たちの活躍を心から期待し人生の成功を心からお祈りします。

(鹿角市議会議長)

『許される日々』

八幡平 佐々木暢子 (高37期)

気力・体力に満ち溢れている皆さん、将来の進むべき道は見えてきましたか？

お待たせしました。今からハチャメチャやれる時が来たのです。

心配せずとも自然と落ち着くところに落ち着きますので、ご安心下さい。

やりたい事、夢中になれる事、

きつとありますよね。私は漆工芸という、かなりマイナーな仕事をしていきますが、その中には確かに喜びがあり、信頼出来る仲間とも出会う事が出来ました。

紆余曲折はつきものです。自分の望むままに突き進んで下さい。

今がかけがえのない輝いた日々だったと気付いた時、無茶した自分について「ニヤリ」と出来たら大成功!!

あなたの人生は祝福されます。

(漆工芸職人)

『贈る言葉』

花輪 駒木 洋武 (高38期)

君たちの卒業にあたり、人生の先輩として激励の意を込めて次の言葉を贈りたいと思います。それは「自分に勝つことが最大の勝利である。」という言葉です。これは私の座右の銘であり大切にしている言葉で、私が小学校の卒業の折に恩師から頂いた言葉です。君たちがこれから先数年で経験することは、君たちが立派な大人になるために必要で、大切な経験をやる時期で、大事な判断や決め事をしなければいけない場面を幾度となく経験することとなります。当然他の人に相談することもあろうでしょうが、最後に判断するのは自分です。自問自答する場面、私はこの言葉を思い出し、自分にとって良い判断なのかを確認します。

自分に負けない強い心をもって歩んでください。

(平和軒・店主)

『輝く自分を見つけて!』

尾去沢 北村 孝子 (高18期)

青垣山の麓に建つ我が母校には前途洋々たる後輩達が勉学に部活に頑張っている。秋の文化祭にはそんな後輩達の雰囲気に触れたりまた各教室を廻って活動の展示作品を見るのも楽しみのひとつである。これから未来へ羽ばたく若き力は無限の可能性に満ちている。

心掛け次第でどんな人生も送れるし、何にでもなれる気がする。自分の好きな事や得意とする事に磨きをかけていけばいつか自分のものになる。

「春光生福澤」春の光が地に豊かな恵をもたらす。鹿角の地にピツタリの言葉といつも思います。校舎から見える四季折々の風景は皆さんの心に優しく、懐かしく染み込まれている事でしょう。

私は、茶道の指導のために二度程花高に伺いました。素直で好奇心旺盛、優しい気持ちの生徒さん達でした。花高生の真直な心が、実は最も難しい事なのです。

卒業企画

旅立つ君たちへ

地元で活躍する先輩から後輩たちに贈る熱きメッセージ

『巣立つ君たちへ』

花輪 高谷 善子 (高24期)

「春光生福澤」春の光が地に豊かな恵をもたらす。鹿角の地にピツタリの言葉といつも思います。校舎から見える四季折々の風景は皆さんの心に優しく、懐かしく染み込まれている事でしょう。

私は、茶道の指導のために二度程花高に伺いました。素直で好奇心旺盛、優しい気持ちの生徒さん達でした。花高生の真直な心が、実は最も難しい事なのです。

「春光生福澤」春の光が地に豊かな恵をもたらす。鹿角の地にピツタリの言葉といつも思います。校舎から見える四季折々の風景は皆さんの心に優しく、懐かしく染み込まれている事でしょう。

私は、茶道の指導のために二度程花高に伺いました。素直で好奇心旺盛、優しい気持ちの生徒さん達でした。花高生の真直な心が、実は最も難しい事なのです。

のになる。さらには井の中の蛙になることなく広く世界に目を向け時代の流れを読み取って欲しい。

海外で異文化に接し刺激をうけることは、知らなかった自分を発見しその後の人生が豊かになると思う。前向きな気持ちを忘れず輝いて生きるようエールを送ります。

(鹿角市国際交流協会々長)

『感謝する心を』

花輪 木村 忠好 (高22期)

ご卒業おめでとうございます。ご両親のお喜びはいかばかりかと拝察いたします。進学する人、就職する人、それぞれ進むべき道は違えども、いよいよ飛躍の時であり、今までの経験しなかった苦しいことも多々あると思います。決して平坦な道のりだけではありません。

そんな時、三年間の高校生活で培ったバイタリティーをもって、常に前向きな心で頑張つてほしいと願っております。

また、何事にも向上心を持って自分の好きな道を目指して突っ走り、悔いのない人生にするために積極果敢にチャレンジしていただきたいし、常に感謝する心を忘れることなく、これからの皆さんの

活躍に期待しております。

(鹿角市役所・総務部)

『旅立ちに添えて』

花輪 岩館香央里 (高42期)

鹿角に戻って十三年、一度離れた故郷は、生まれ育ったとはいえず違和感があったことを覚えています。

皆さんにはこれから、大人としての視野や意識が育ちます。鹿角を離れるなら尚更、地元で就職することになるでしょう。時に賞賛、時に落胆しながらも、故郷をしっかりと見て育ててほしい。これが鹿角人になった私の願いです。

引越しの時お腹にいた子は、この春中学生。私自身も四十二歳の歳祝いで、皆さんと同じく節目を迎えます。豊かな未来のために今を大切に、「日々是好日」と思える毎日を送って頂きたいと思えます。

ご卒業おめでとうございます。

(恩徳寺)



笑顔や毎日続ける事の難しさ、是非実行してみてください。世の中が明るく見えて来ます。一生勉強と思っております。勉強する事で新しい発見があると、楽しくてしかたがありません。皆さんも打ち込める何かに出会えます様に...

(茶道・助教授)

『旅立つ若人へ』

尾去沢 黒澤 文男(高17期)

「ご卒業おめでとうございます。希望と期待に満ちあふれる想いでいっぱいの方々には、前途洋々の人生が待っていることと思いません。消防団に身を置いて一人一人として、ご卒業されます皆さんへの私の思いを述べさせていただきます。平成23年3月11日に発生した東日本大震災を経験し、自然災害の恐ろしさを改めて認識されました。」

また、原子力発電事故では人間の非力さが身にしみました。被災された方々の毎日の苦悩が報道されるたびに心が痛みます。日本中よりも、世界の国々から暖かい手がさしのべられ、被災された方々を絶望と悲しみから救って頂き「絆」が生まれました。「勇気をもたらした、前向きに生きよう」という声を聞き、少しずつではありますが、復興の光が感じられました。一人ひとりが事故に遭わない、災害の犠牲にならないためにも、常日頃からの心構えをしつかりしておくことが大切だと思います。災害は、いつ・どこで・どんな規模で発生するかわからないのが現実です。もし皆さんが災害に遭遇した時は、まず「自分の身を守る」ことです。その後協力し合い、周

旅立つ君たちへー 先輩から後輩への熱きメッセージ

りの人々たちを助けてあげて下さい。皆さんの力で「美しい郷土」「美しい日本」を守り育てて下さることを願いはなむけといたします。(鹿角市消防団長)

『小農への誘い(原点回帰)』

花輪 倍賞 元悦(高24期)

気が付けば、還暦が目前です。私は測量会社を経営していますが五十代に入り土のにおいが懐かしく恋しく、今ではりんこのワイ化樹を増やしつつあります。販売収入に関しては私の農業技術能力では到底他者に太刀打ち出来ませんし、年相応に身体が軋みもつらいのですが、どういつか心の平安は確実に得ることが出来ます。汗をかきながらの外仕事は、うれしいのです。今は亡き当家の先達は、跡継ぎの私に何を残したかったのでしょうか。日本は他国に左右され易い環境にありますし、施策が国民の望む方向でないこともあります。でも大原則は、人は地球から命をいただいていることにあり、土に生まれ土に還ります。地域に根付く小農業や小さな商いが地域の根幹を支える力なのかもしれません。私の歩みと小農への期待は皆さんにお勧め出来る場所にはないのですが、自分を見失わず、恐れることなく我が道の領域に淡々と進

み、何事にも至誠を尽くして暮らすことを忘れずにいて欲しいと願います。

位置関係や境遇は人それぞれですが、結果は自己責任により必ず後から付いてまいります。他人と比較することなく、自らの方向と姿勢を求めて下さい。(浦上津野ダイヤム・社長)

『ハングリーであれ!』

花輪 奈良 努(高25期)

昨年、享年56歳の若さで亡くなったアップル社のステイブ・ジョブ氏が、生前オックスフォード大学の卒業式の記念講演に招かれ、二千名を超す卒業生を前に「私は大学を卒業していません」と始まる。彼は20歳で大学を中退し、会社を立ち上げアメリカカンドリームを成し遂げたのである。そんな彼がこれから社会に旅立つ超エリート(の)学生たちに向けて「ハングリーであり続ける、愚かであり続ける!」という言葉を残してスピーチは終わった。でも、出世しなくてもいい。お金持ちにならなくてもいい。たとえ失敗してもいい。どんな君であらうとも受け入れてくれる。それが母校である。胸を張り、声高らかに凱旋歌を唄い、帰ってきてほしいものである。(鹿角畜場)



ふるさとお願ひします

第64期 クラス幹事 (H23年度卒)

- A組 兎澤 舞 ○成田 喜輝
B組 初澤 夏穂 平野 雄太
C組 阿部 美郷 佐藤 一樹
D組 菊池 舞 高橋 勇樹

○印は学年幹事代表



『あのなっし』

今年の秋田県のキャッチコピーは「秋田びじょん」と「あんべいいな」である。びじょんのよを小さくして遠くから見ると、びじんに見える。「あんべいいな」は、花輪でも使うが、花輪流に言うとならば「あんべいいなっし」である。花輪の方言は断片的な言い方でなく「あのなっし」「んだいなっし」と言い、相手に語りかける言い方をします。また「これ食いばい」「こつちや来ればい」のように「けー」「こい」でなく「ばい(ばいいな)」をつけて語りかける。



吉村 アイ(高19期) 編集委員・花輪

若い頃、秋田市の友達に「花輪の言葉はやさしい言い方だ」と言われたことがある。特に「あのなっし」と言われると心持がいいと言われた。今は、花輪でも方言を使う人が少なくなってきたが、花輪弁を守る会(?)の副会長(勝手な会です)としては、方言を話して続けていきたいと思っている。もつとも、東京弁はしゃべりたくても、しゃべねどもしえ。